

### 第3回 奈良県立高等学校入学者選抜検討委員会 議事要録

1 日時 令和4年3月28日(月)14時～16時

2 場所 奈良県庁 東棟2階 教育委員室

3 出席者(敬称略)

京都大学特任教授	小松 郁夫
奈良教育大学教授	赤沢 早人
県議会文教くらし委員会委員長	森山 賀文
県都市教育長協議会会長	上田 陽一
県町村教委長会会長	小谷 隆男
児童生徒保護者代表	春山 真美
県高等学校長協会会長	吉田 浩一
県中学校長会会長	深瀬 重雄
県小学校長会会長	森永 晃

県教育委員会教育次長 前田 景子

他、県教育委員会事務局職員 4名

(※ 委員欠席なし)

4 概要

(1)開会

○県教育委員会教育次長<あいさつ>

・この4月から、学校教育課を新たな組織として、義務教育関係は「学ぶ力はぐくみ課」、高校教育の関係は「高校の特色づくり推進課」と組織を変えて担当させていただくことになる。しっかりと学びの改革を推し進めてまいりたい。

・改革の大きな柱として、インクルーシブな社会の実現とICTの活用による授業と評価の改革を挙げている。この4月に入学する生徒からは1人1台端末を活用して学びの形が大きく変わるとともに、その取組を評価する方法も変わる。高等学校における新しい時代の教育が期待される中、入学者選抜も時代に合ったものに変えていく必要があると考えている。本日も忌憚ない意見をお願いしたい。

(2)協議

○事務局より<資料に基づき説明>

○委員より<主な意見>

・配慮が必要な生徒を受け入れた高校では、中学校の担任の先生や学年主任の先生から、「どのような配慮をされていたのか、どんな配慮が必要か」を聞き取り、全教職員で情報共有している。

・中学校ではどのような支援を行っているかについて県の教育委員会に話をし、高等学校にもつないでもらいながら、配慮受検をした生徒が今年度もいた。何よりも子どもが入試

という不安に対して、とにかく安心感を持たたというのが非常に大きかったと喜んでいる。

・発達障害のある生徒について、高校に入って伸びる生徒もいるが、一方でそうとはいえない生徒もいる。合格した生徒をしっかりと見てあげられる体制をお願いしたい。

・今回、知的障害のある生徒を対象とした山辺高校の自立支援農業科が設定されたことについては、通学距離が長いのは気になるが、農業で体を動かして自立していくのは素晴らしいことだと思う。

・帰国生徒等特例措置については、中学3年生の11月段階で日本語が全くといった生徒を3月の入試段階で日本語で作文が書けるように指導し、帰国生徒等特例措置対象の高校に入学につなげた経験がある。授業の取り出しの対応等、高校で丁寧に指導され卒業し、就職することができた。この制度がなければどうなっていたのだろうかと思う。

・全国募集については、十津川高校についてもっとPRをして、寮のあることを生かさればと思う。その他の寮についても、県内の生徒の対象地域の拡大等、寮の在り方、魅力化を具体的に進められれば南部東部の生徒が増えることにつながるのでは。

・学校に来なければ出来ないという限定的なクラブに限ってスタートした全国募集の制度だが、専門の先生による指導によって魅力化を図ること、南部東部という枠組みの中でどのように広げるかについて検討し、関心のある生徒を集められればよいのでは。

・入試制度を検討するに当たっては、特色ある高校、魅力ある高校をつくることと表裏の関係であると思う。また、県内の通学に関わる距離の問題に対して、遠隔授業の活用が必要となると考える。

#### ○委員長まとめ

・様々な障害を持った生徒の受け入れについては、これまでの状況をみて緊急に対応しなければいけないということではないようなので、引き続き、本人の学ぶ機会をしっかりと保障していくということが重要だと考える。また、教育委員会と学校とが連携をとって、一人一人の受検者の事情をしっかりと受け止めて学びを保障できる体制づくりを整え、個別の先生に負担のいかないようお願いしたい。

・特別支援学級で学んだ子たちの新たな選択肢として、農業というところに具体化した制度が作られた。このような生徒たちの才能、個性が、これからの農業に発揮できるようなカリキュラムとなれば新しい高校の課程修了、学校制度の履修の在り方に一石を投じることになると考える。

・遠隔教育については、新しい入試制度に併せて議論をする必要があると思う。1人1台端末で当たり前に使われるようになれば、入ってからの学びの多様化にもつながると考える。

#### ○事務局より<次回以降のテーマの提案>

多様な能力を評価する選抜方法に関すること

#### (3)閉会

#### ○事務局より

・今後について事務連絡